

あとがき

一昨年（昭和六十二年）十月、熊野町史通史編の刊行後、もと通史編に掲載を予定していた熊野地方の方言や、民俗・伝承歌謡（歌謡の楽譜を含む。）に関する原稿をまとめて生活誌編とし、当時までに収集された資料に若干その後入手できた資料を加えて資料編を構成することとし、右の両編と年表をもって一巻を編むことが町史刊行委員会で決定された。

編集委員会はその計画にそって鋭意編集の業にたずさわって来たが、漸くここにその刊行を見ることができるのは大きな喜びとするところである。資料編の編集作業に思わざる時間を要して、本編の刊行が予定より約半年遅引したことを、町当局並びに町民の皆様にお詫び申上げる。

本編においても「筆の熊野町」の特質を鮮明にするために、筆にかかわることがらについては格別に留意した。方言に関する章では毛筆の語彙について別の項目がたてられており、資料編では筆関係資料の章を特に設けた。筆関係その他近・現代の章でも、若干の統計資料を採録したが、あるいは一部読者には繁瑣と考えられるかもしれない。しかし熊野町ないし熊野町における筆の歴史を考える場合、重要な意味を持つものと思料した結果であり、その点の御理解を得たいと考えている。

通史編にひきつづき、本編を刊行し得たのも、熊野町内外の数多くの方々の御配慮、御協力の賜物である。

生活誌編の間聞きなどの調査に、快く応じていただいた町民各位、殊に熊野町の民俗の章で、往時の風俗を生き／＼と写されたユニークな絵画を、挿図として使用することを許された中原明雄氏に心からお礼を申し上げます。

その他貴重な資料の借覧、撮影並びに掲載を許可された左記の施設並びに個人の方々に厚く感謝の意を捧げる。

広島県立文書館、呉市立図書館、呉市入船山記念館、熊野町川角地区、呉市旧押込地区、佐伯郡宮島町 野坂元良氏、呉市 澤原梧郎氏、広島市 野間文雄氏、熊野町 織田信氏、熊野町 佐々木忠夫氏、熊野町 和田実行氏

なお資料編第四・五章では呉市立図書館に寄托された澤原梧郎氏所蔵の新聞資料を数多く採録させていただいた。重ねて澤原氏に謝意を表する次第である。

平成元年三月

熊野町史編集委員代表

三 上 嘉 明

熊野町史刊行委員会委員名簿

役職名 氏 名

委員長 福岡孝義

委員 織田信

委員 中原明雄

委員 猪野了周

委員 石山徹春

熊野町史生活誌・資料・年表編執筆者名簿

| 執筆者 | 所属 | 担当 |
|-------|-------------|--------------|
| 神鳥武彦 | 広島大学学校教育学部 | 生活誌編第一章 |
| 友久武文 | 文教女子大学文学部 | 同第二章・同第三章第一節 |
| 福岡孝義 | 熊野町教育委員会 | 同第三章第二節 |
| 河瀬正利 | 広島大学文学部 | 資料編第一章 |
| 押部佳周 | 広島大学学校教育学部 | 同第二章・年表 |
| 山中寿夫 | 元文教女子大学文学部 | 同第三章 |
| 星野英一 | 広島県立観音高等学校 | 同第三章 |
| 井野美津子 | 広島市公文書館 | 同第三章 |
| 三上嘉明 | 比治山女子短期大学 | 同第四章・同第五章 |
| 藤井千之助 | 松山商科大学経営学部 | 同第四章 |
| 佐中忠司 | 広島大学学校教育学部 | 同第四章・同第五章 |
| 柴原健児 | 広島大学附属東雲中学校 | 同第四章 |

熊野町史

生活誌
資料編
年表

平成元年三月一日 発行

編集
発行
広島県安芸郡 熊野町

〒731-42 広島県安芸郡熊野町三五五一番地の一

電話(〇八二)八五四一一二二

印刷 榊きよつせい

中国支社 広島市中区八丁堀二一六
電話(〇八二)三二一六七一